

ご家庭でも防災教育を！

子供たちは一日の三分の一を学校で過ごします。ですが、三分の二はご家庭での生活です。防災教育はご家庭で行っていく必要があります。『防災ノート』には、「家にいるときに大地震が起きたらどうしますか」「非常用持ち出し袋には何をいれますか」等のテーマについて考え、話し合うページがあります。是非、活用しながら、ご家庭での約束や事前の備えをしていただければと思います。慶應義塾大学環境情報学部准教授 大木聖子氏の研究実践をご紹介します。

事前の備え

1 家族の命はこれで決まります

- ・自宅の耐震化：1981年5月31日までに着工した住宅は、旧耐震基準です。診断を受けましょう。
- ・家具の固定：地震は必ず起きます。まだ固定していない場合は、家具の固定の仕方をお子様に教えるために、お子様と一緒に固定しましょう。

※阪神淡路大震災の犠牲者の88%は住宅の倒壊と家具の落下、つまり自宅が凶器になっています。

2 備蓄は3パターンで考えましょう

- ・常に持ち歩く物（防災ポーチ）
- ・自宅に用意しておく物
- ・職場に置いておく物

3 常に持ち歩く物(防災ポーチ)

- ①命を守るために絶対入れておく物
- ②あると便利な物
- ③心がほっとする物

家でも外でも

1 ダンゴムシのポーズ

(机がないとき)

- ・両ひじを地面につけます。
- ・両手で頭を守ります。

2 サルのポーズ

(机があるとき)

- ・机の脚の真ん中か上の方をつかみます。
- ・4本脚の場合は、斜めに持ちます。
- ・両ひざを地面につけます。

3 アライグマのポーズ

(火災のとき)

- ・ハンカチで鼻と口を覆います。
- ・ティッシュはだめ。
- ・袖や裾、襟ぐりでも良いです。

どんなときも「あなたの命が大事だ」ということをお子様に伝えていきましょう。その上で、ご家族の防災、ご家族との約束を具体的にしていくと良いです。

最新の防災教育を武蔵野小に！

この数年間で小学校の防災教育は進化しています。武蔵野小ではどのように指導しているかをご紹介します。ご家庭での防災教育とリンクさせていただけるといいと思います。

これまでの防災教育	今の防災教育
<p>放送や先生の指示があってから、机の下にもぐる等の対処行動をする。</p> <p>→立っている先生より座っている子供たちの方が早く揺れに気付きます。先生の判断を待っていたら危険が大きくなってしまいます。</p> <p>→強い揺れでは話すことすらできません。さらに大きい揺れでは、停電する可能性が高くなります。</p>	<p>揺れに気付いたらすぐに対処行動がとれるような訓練をしています。</p> <p>子供自らが様々なシチュエーションで危険を即座に判断し身を守る練習をすることで、地震発生時に教員からの指示を待たずに子供自身の判断で身を守る行動がとれるようにします。訓練を通して身に付いた力は、学校内に限らず登下校中や自宅での地震発生時に生かされます。</p> <ul style="list-style-type: none">・『3つのない』を合言葉にしています。「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を自ら探します。例えば校庭にいる場合、以前は校庭の真ん中に集まってしゃがむよう先生が指示をしていました。今は『3つのない』かどうかを自ら判断し、落ちてこない・倒れてこない・移動してこない場所であればその場で対処行動をさせます。・机があれば「サルポーズ」（上の方を持ち、両ひざを床につけてもぐります。）、机がなければ「ダンゴムシポーズ」（頭を両手で覆い、両ひじ両ひざを地面につけるポーズ）をとります。・校内放送を使わず、緊急地震速報の報知音を使って訓練します。音が鳴ったり揺れを感じたりしたらすぐに対処行動をとる訓練をしています。各学級で訓練したり、停電想定で校内放送を使わない避難訓練をしたりしています。
<p>毎月安全指導や避難訓練をしているが、受け身になっている。</p> <p>→自らの事として考えない限り、学習は身に付かず、いざというときの正しい判断ができません。</p>	<p>『考えさせる安全指導・避難訓練』を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none">・毎月の安全指導や避難訓練では、子供たちに何を身に付けさせるのかを明確にした年間指導計画をたてています。・安全指導では、ワークシート等を活用し、「考えさせる」ことを重視しています。避難訓練では、自ら考えて行動することができるような指導、訓練の振り返りをしています。・その指導計画・内容は、小学校から中学校まで系統的に指導するために、小中一貫教育として武蔵野小・つつじが丘小・瑞雲中学校の3校で揃えています。

いざというときに自分で判断できる力を、小学校6年間で養っていきたいと思います。今後も引き続きご家庭でのご協力をお願いいたします。

参考：慶應義塾大学環境情報学部准教授 大木聖子研究室 ウェブサイト・東京堂出版「地震防災ははじめの一步」